

第Ⅳ章

健康・食育状況アンケート

1 調査の概要

市民の健康や食育に関する意識や対応、実践について調査を行うため、対象群を年齢階級別に6グループ（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期）に分けて調査を行いました。

調査方法は、回収率を想定して必要送付数を算出し、無作為抽出で選出した対象者に調査票を郵送し、記入した調査票を郵送で回収する郵送調査としました。令和4年4月28日に郵送、回答の締切を5月31日とし、その後1か月間回答があったものを分析しました。

No.	対象群	対象年齢	人口	必要回収数	設定回収率	発送必要数	実発送数	回収数	回収率
1	乳幼児期	0～6歳	2,754	262	40%	655	655	362	55.3%
2	学童期	7～12歳	2,961	263	40%	658	657	314	47.8%
3	思春期	13～19歳	3,549	267	25%	1068	1,066	334	31.3%
4	青年期	20～39歳	9,540	281	25%	1124	1,121	322	28.7%
5	壮年期	40～64歳	22,019	285	30%	950	946	421	44.5%
6	高齢期	65歳以上	18,568	285	50%	570	563	315	56.0%
計			59,391	1643		5025	5,008	2,068	41.3%

《調査項目》

調査項目は、性別、年齢、就業状況、家族構成などの「属性」。健康状態、体型、健診受診状況などの「健康関心」。充実してもらいたい医療機能など「医療満足度」。朝食摂取状況、主食・主菜・副菜摂取状況、減塩、外食・中食[※]利用状況、食生活の課題などの「食事」。食育関心などの「食育」。運動の頻度、運動場所などの「運動」。就寝時間、目覚めなどの「睡眠」。ストレスの有無、ストレス処理方法、相談相手などの「精神保健」。喫煙状況、禁煙意思などの「喫煙」。飲酒状況、飲酒量などの「飲酒」。薬物知識、薬物意識などの「薬物」。自歯本数、歯や口の悩みなどの「歯科保健」。社会活動参加、外出、子育て情報などの「健康対策」。市の事業についての認知度などの「市の事業」、など全119項目について調査を行いました。質問内容は対象年代によって異なるため、質問項目数が最も少なかったのは乳幼児期で50問。最も多かったのは、壮年期で74問でした。

なお、前回調査（平成26年）ならびに本市と同様な手法、調査項目で調査を行った自治体の調査結果（清川村・平成20年、中井町・平成23年、葉山町・平成24年、清川村第二次・平成24年、松田町・平成25年）も参考に比較するなどして、逗子市の特徴を抽出しました。調査分析結果のうちから、ここでは特徴的な事項について示します。

※中食：市販の弁当や惣菜を持ち帰って食べる

《検定結果の見方》

「差があるかどうか」を統計学的に調べ、カイ二乗検定という方法で検定をかけた結果です。図中に「*（アスタリスク）マーク」で、調査結果に差があるかどうかを示しています。

グラフでみると差があるようにみえるのに「*」がついていないときは、データ数が少ないためのばらつきであり、統計学的には「差があるとは言えない」（もっと標本が多くないと何とも言えない）ということを示しています。

なお、図中の%（パーセンテージ）は無回答を除いた数値を記載しています。

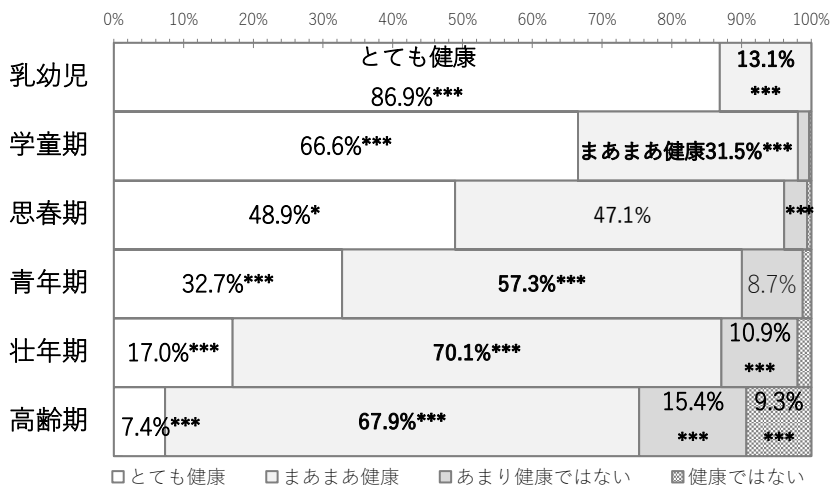
表示	意味	統計学的な表現
*	少なそうだ／多そうだ	有意水準 5% で有意
**	少ない／多い	有意水準 1% で高度に有意
***	確実に少ない／確実に多い	有意水準 0.1% で高度に有意

2 調査結果について

(1) 全体の傾向

【健康状態】

健康状態は、乳幼児期が最も健康で、年齢が上がるほど「とても健康」が少なくなり、「あまり健康ではない」、「健康ではない」が増加する傾向を示しています。



【健康法（順位）】

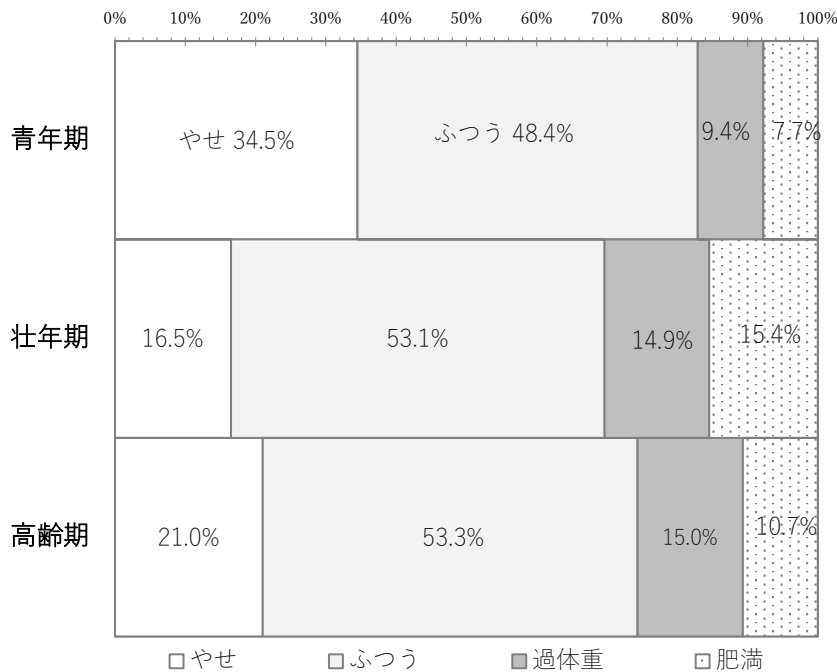
健康法の順位を比較すると、青年期以外の年代で「朝ごはんを毎日食べる」が1位になっています。青年期では「きちんと水分をとる」が1位になっています。一方、高齢期では「きちんと水分をとる」が4位とやや少なくなっています。

乳幼児期			学童期			思春期			青年期			壮年期			高齢期		
順位	項目	(%)	順位	項目	(%)	順位	項目	(%)	順位	項目	(%)	順位	項目	(%)	順位	項目	(%)
1	朝ごはんを毎日食べる	87.2%	1	朝ごはんを毎日食べる	80.2%	1	朝ごはんを毎日食べる	76.6%	1	きちんと水分をとる	71.3%	1	朝ごはんを毎日食べる	64.6%	1	朝ごはんを毎日食べる	85.7%
2	外で遊ばせたり体を動かしたりする	83.0%	2	友だちと会う・遊ぶ	70.3%	2	残さず食べるよう気をつける	63.5%	2	睡眠を十分とる	59.5%	2	健康診断を定期的 に受診する	61.2%	2	できるだけ歩いたり体を動かしたりする	65.9%
3	よく眠る	82.2%	3	運動やスポーツをする	68.7%	3	運動やスポーツをする	56.0%	3	朝ごはんを毎日食べる	57.9%	3	きちんと水分をとる	60.2%	3	栄養のバランスを 考えて食べる	62.4%
4	歯を大切に する	74.1%	4	残さず食べるよう 気をつける	61.7%	4	きちんと水分をとる	55.4%	4	栄養のバランスを 考えて食べる	51.7%	4	睡眠を十分とる	57.8%	4	きちんと水分をとる	61.5%
5	テレビやスマートフォンを 見すぎない	57.9%	5	汗をかいたらきちんと水分 をとる	59.1%	5	太りすぎない	50.3%	5	できるだけ歩いたり体を動か したりする	50.2%	5	食べすぎないよう 気をつける	56.6%	5	睡眠を十分とる	60.5%
6	おやつをあまり食べ過ぎない	56.5%	6	太りすぎない	42.2%	6	友だちと会う・遊ぶ	48.8%	6	残さず食べるよう 気をつける	48.3%	6	栄養のバランスを 考えて食べる	55.9%	6	食べすぎないよう 気をつける	58.0%
7	日光によく当たる	53.2%	7	ジュースなど清涼飲料水を 飲みすぎない	41.2%	7	たばこは吸わない	45.8%	7	規則的な生活をこころがける	46.7%	7	太りすぎない	54.4%	7	規則的な生活をこころがける	57.0%
8	周囲の禁煙	45.7%	8	テレビやスマートフォンなどを見 すぎない	41.2%	8	お酒は飲まない	44.0%	8	太りすぎない	46.4%	8	できるだけ歩いたり体を動か したりする	53.9%	8	健康診断を定期的 に受診する	55.4%
9	食べる量に気をつける	40.1%	9	おやつをあまり食べ過ぎない	38.3%	9	ジュースなど清涼飲料水を 飲みすぎない	35.9%	9	食べすぎないよう 気をつける	46.1%	9	規則的な生活をこころがける	44.6%	9	残さず食べるよう 気をつける	49.0%
10	友だち遊び	37.3%	10	ゲーム機などで遊びすぎない	38.3%	10	食べすぎないよう 気をつける	34.7%	10	友だちや仲間と会う	39.9%	10	運動やスポーツをする	39.5%	10	太りすぎない	48.1%

【体型（青年期・壮年期・高齢期）】

青年期・壮年期・高齢期についてBMI※の分布をみると、年齢が上がるほど「ふつう」が多くなります。青年期と比べ壮年期では「過体重」と「肥満」が多くなる傾向を示しています。

※BMI：Body Mass Index（体格指数）の略。[体重(kg)]÷[身長(m)の2乗]で算出される値。肥満や低体重（やせ）の判定に用いる。



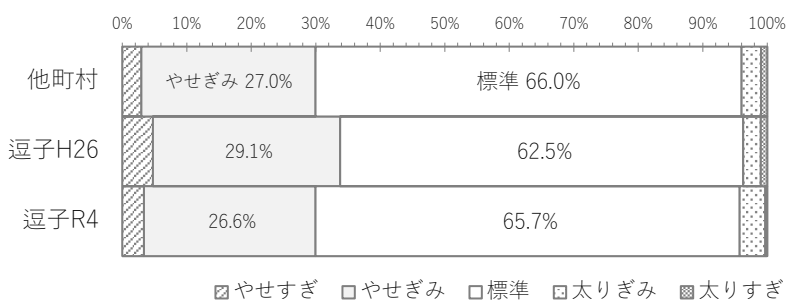
肥満度	BMI
やせ	19.8未満
ふつう	19.8以上～24.2未満
過体重	24.2以上～26.5未満
肥満	26.5以上

BMI=体重(kg)/身長(m)²

【体型（乳幼児期）】

乳幼児期についてカウプ指数※でみると、特に差はみられませんでした。

※カウプ指数：生後3カ月から5歳までの乳幼児に用いられる体格指数。[体重(kg)]÷[身長(m)の2乗]×10で算出される値。



発育状態	カウプ指数
やせすぎ	13未満
やせぎみ	13以上～15未満
標準	15以上～19未満
太りぎみ	19以上～22未満
太りすぎ	22以上

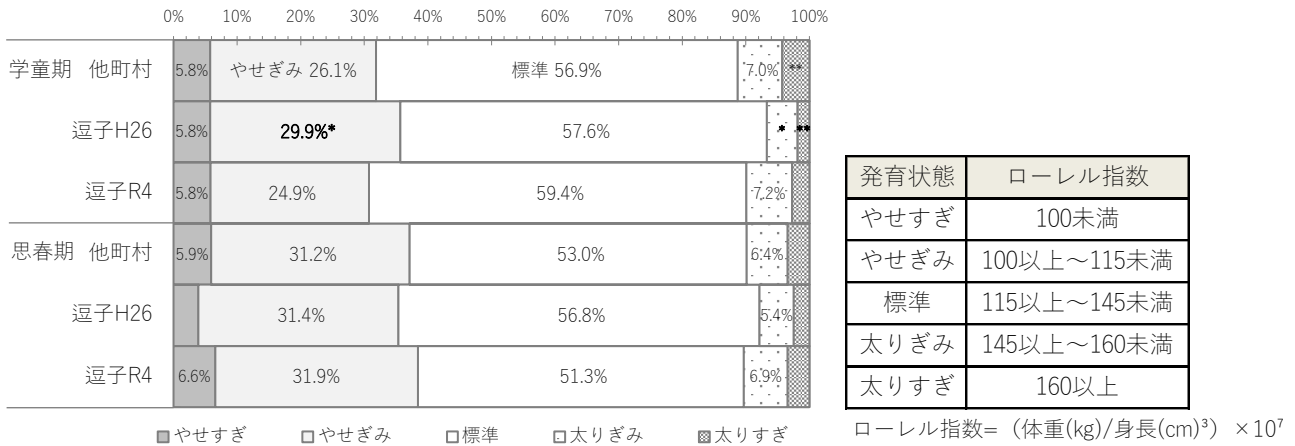
カウプ指数=BMI=体重(kg)/身長(m)²

【体型（学童期・思春期）】

学童期と思春期についてローレル指数^{*}でみると、特に差はみられませんでした。

※ローレル指数：小学生の児童や中学生の生徒に用いられる体格指数。本計画では高校生についてもローレル指数を使用。

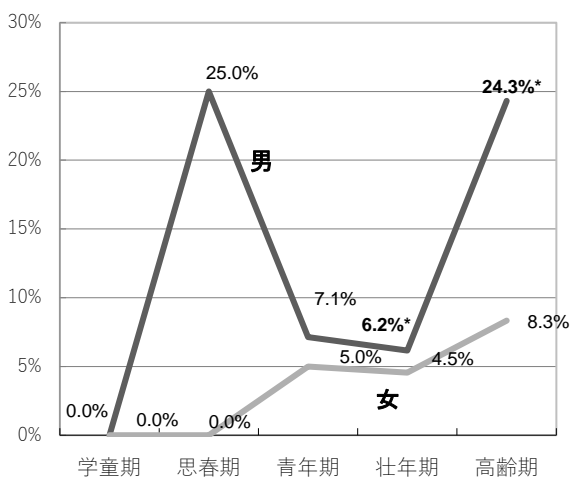
[体重 (kg)] ÷ [身長 (m) の3乗] × 10 で算出される値。



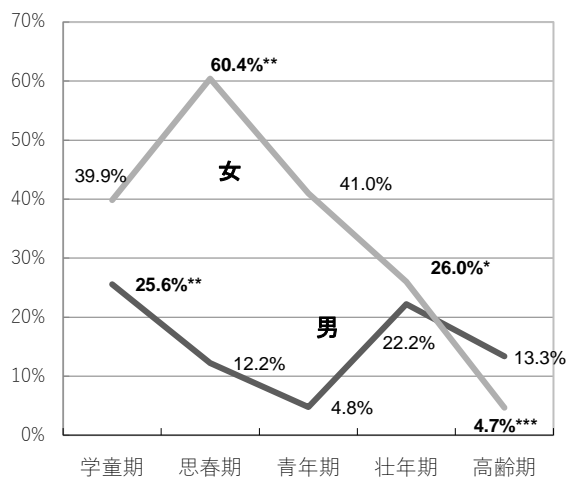
【体型希望】

過体重・肥満なのにやせたいと思っていない人は男性で全体的に多くなっています。女性は、高齢期にみられます。一方、現在やせているのに、更にやせたい人は男性では学童期で特に多く、女性では学童期から青年期で多く、特に思春期に多くなっています。若い女性のやせ傾向は特に神奈川県において顕著といわれますが、広い年代に広がっていることがうかがえます。

過体重・肥満なのにやせたいと思っていない人



やせているのにやせたいと思っている人



【食生活で実行していること】

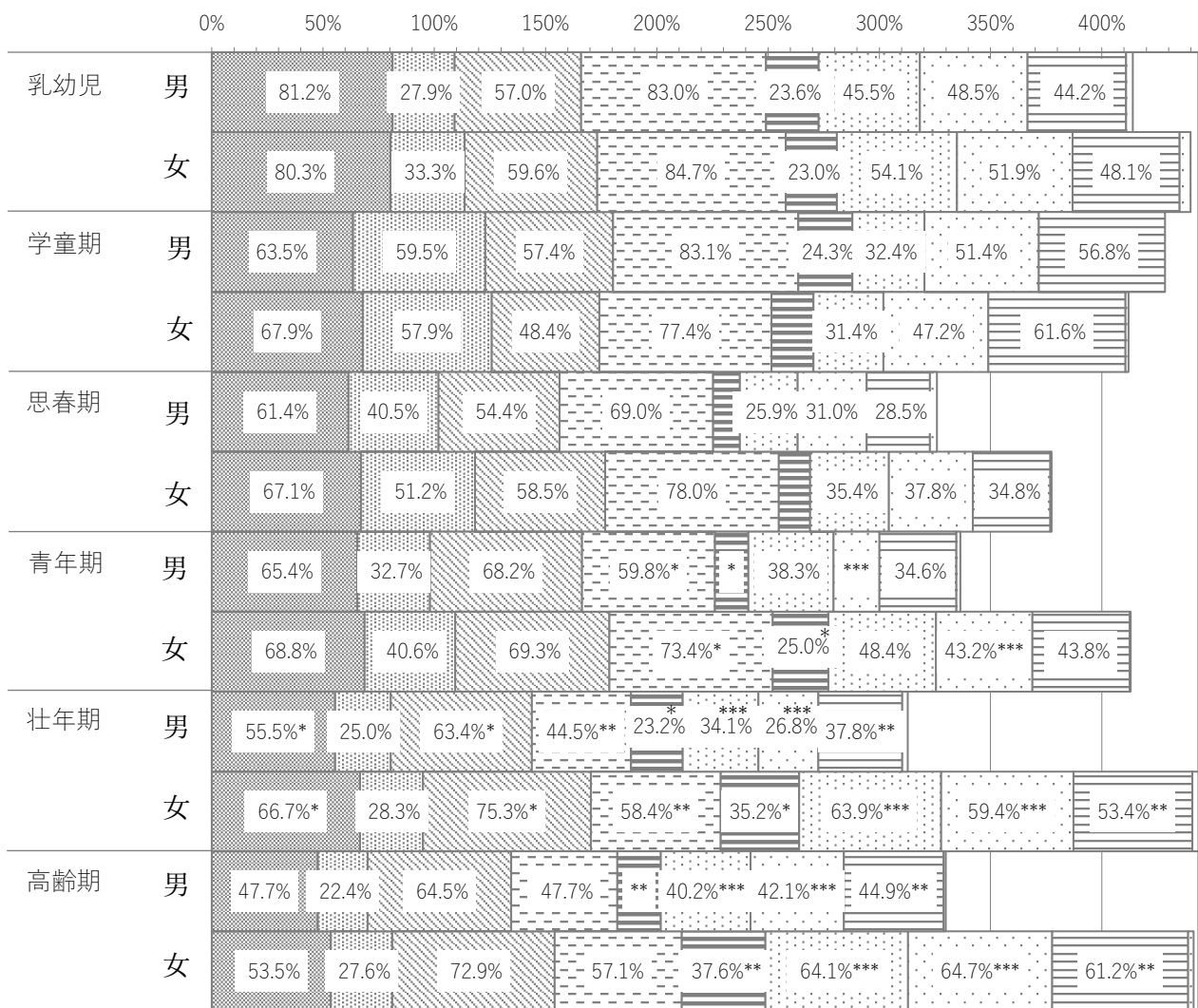
食生活で実行していることは、乳幼児期では「食事を楽しむが」が多く、学童期や思春期では「正しく箸を使う」が多く、青年期から高齢期では「食品をむだにしない」が多くなっていました。

『いただきます』『ごちそうさま』を言うは乳幼児期から思春期で多く、「身近な地域で生産されているものを食べる（地産地消）」は壮年期や高齢期で多くなっていました。

「衛生的に食品を取り扱う」乳幼児、壮年期、高齢期で多くなりました。

「日本の行事や季節にちなんだ料理（おせち料理や節分の福豆、柏餅など）を食べる」は乳幼児期と高齢期で多く、「食事作り（買い物・調理・配膳・片付け等てつだいも含む）に参加する」は乳幼児期、学童期、壮年期、高齢期で多い、などなっていました。

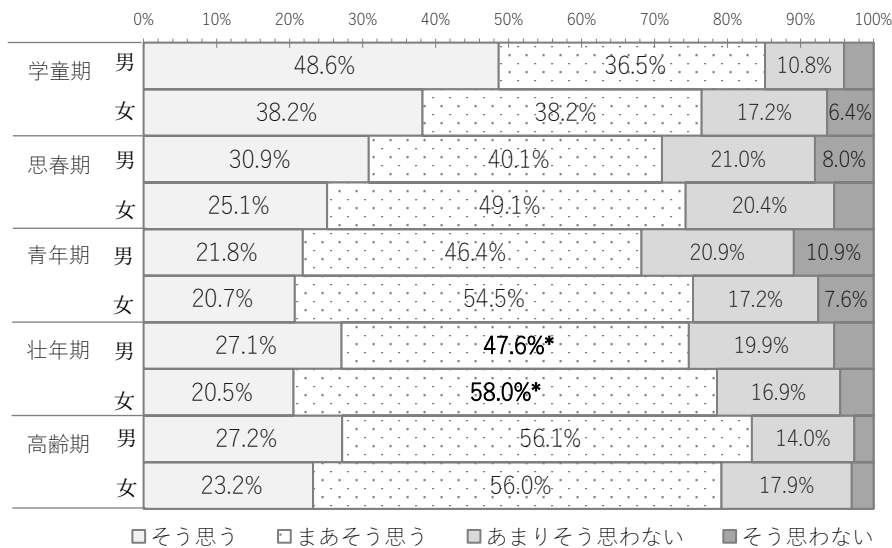
男女別にみると、青年期以上の女性で取り組みが多くなっていました。



- 食事を楽しむ
- 「いただきます」を言う
- 行事食
- 正しく箸を使う
- 地産地消
- 食事作りに参加する
- 食品をむだにしない
- 衛生的に取り扱う
- その他

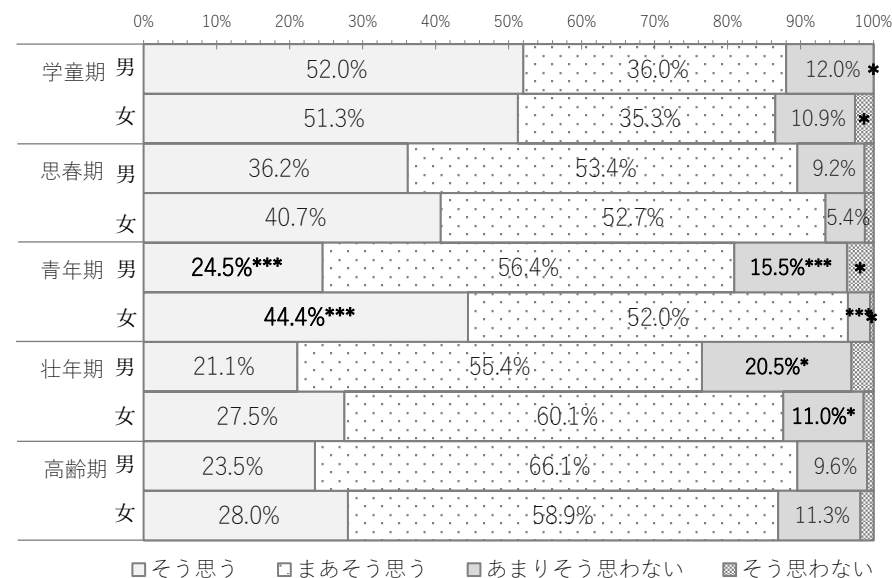
【自分が好きか】

自分が好きかについて男女別にみると、壮年期の男性では「まあそう思う」が少なく、壮年期の女性では「まあそう思う」が多くなっていました。その他の年代では特に差はみられませんでした。



【自分は大切にされているか】

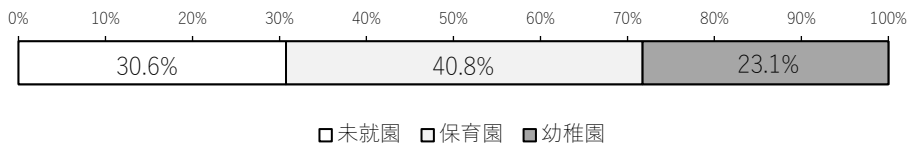
自分は大切にされているかについて男女別にみると、学童期の女性で「そう思わない」が多くなっていました(2.6%)。また、青年期の男性では「そう思う」が少なく、「あまりそう思わない」、「そう思わない」が多くなっていました。壮年期の男性では、「あまりそう思わない」が多くなっていました。思春期、高齢期では特に差はみられませんでした。



(2) 乳幼児期の傾向

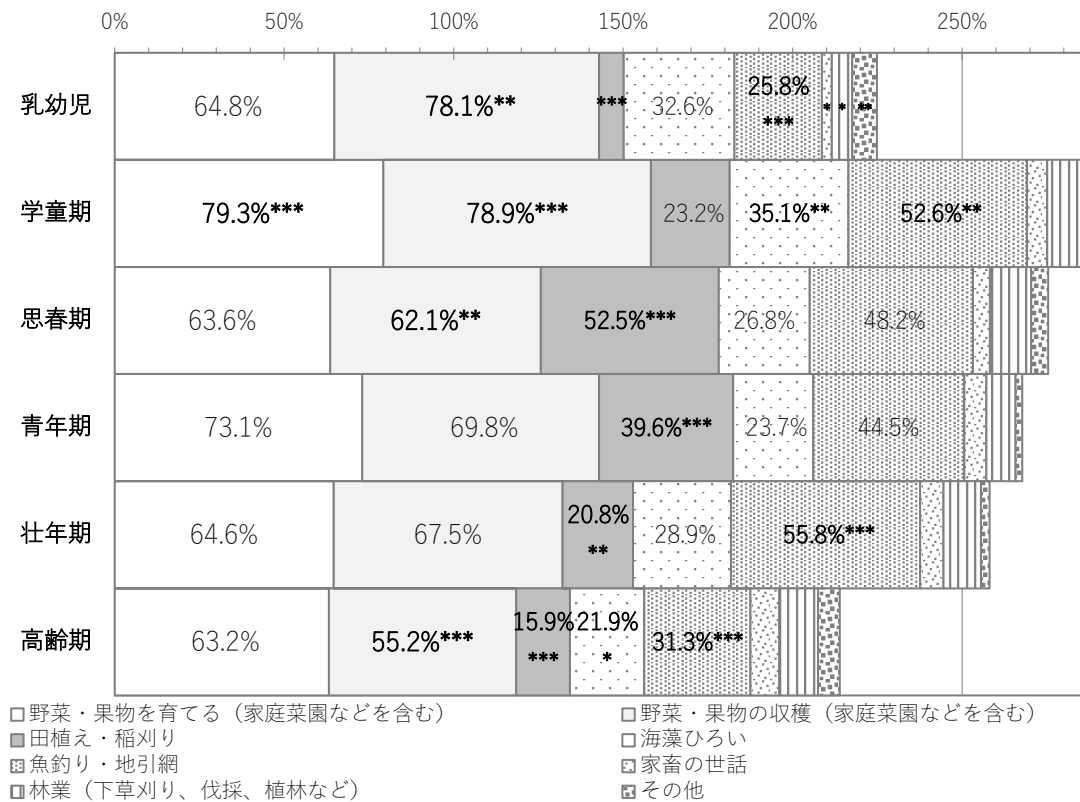
【就園】

乳幼児期の就園状況をみると、保育園が最も多く、幼稚園が少なくなっています。



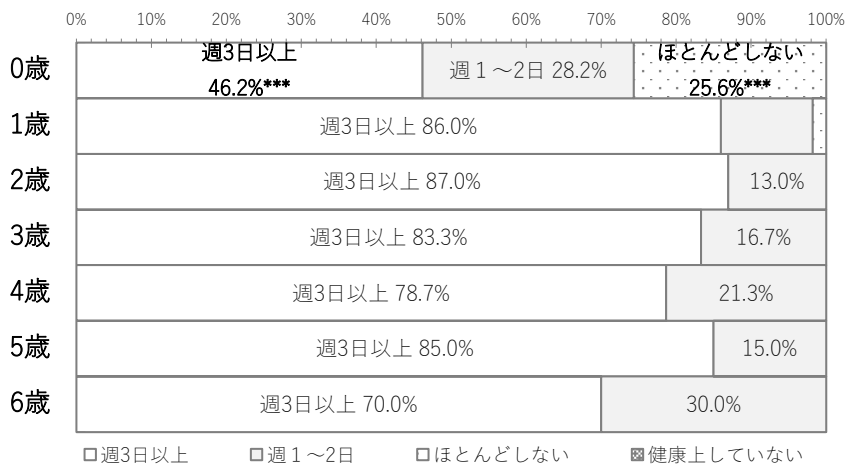
【農林水産体験】

農林水産体験についてみると、乳幼児期では「野菜・果物の収穫（家庭菜園などを含む）」、「その他」が多く、約3割が「海藻ひろい」を経験しています。なお、学童期になると「野菜・果物を育てる（家庭菜園などを含む）」、「海藻ひろい」、「魚釣り・地引網」が多くなっています。



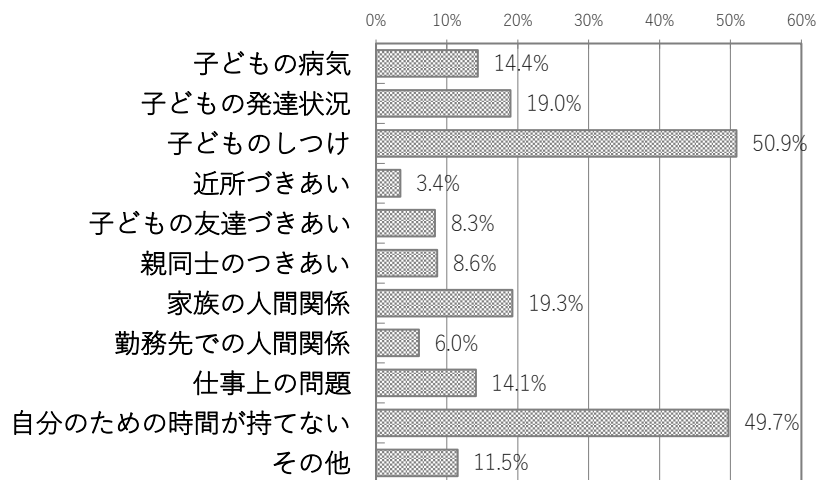
【外遊び】

乳幼児期の外遊びについて、0歳で「週3日以上」が少なく、「ほとんどしない」が多くなっています。その他の年齢では差はみられませんでした。



【保護者のストレス】

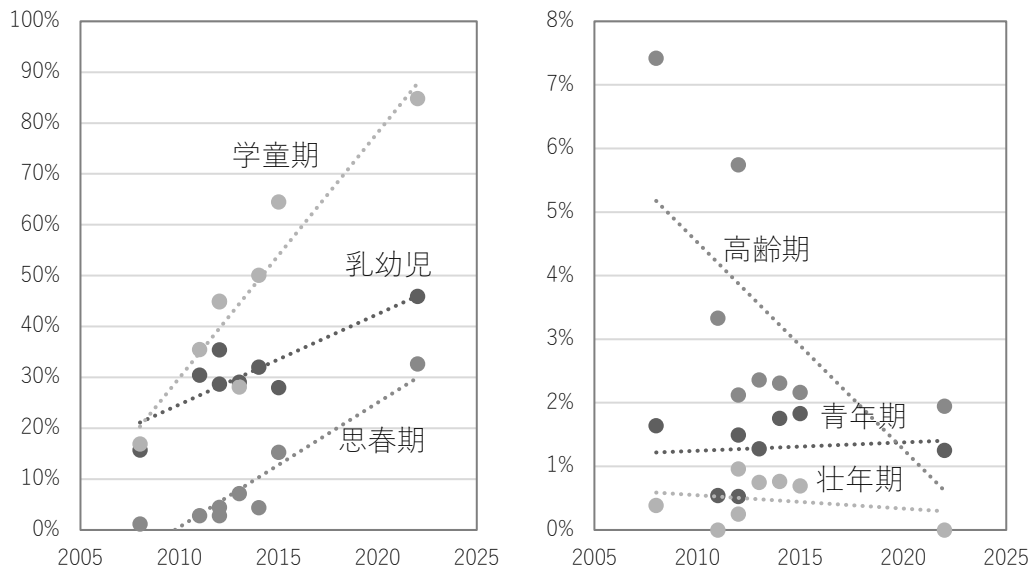
「子どものしつけ」、「自分のための時間が持てない」が多くなっていました。



(3) 学童期・思春期の傾向

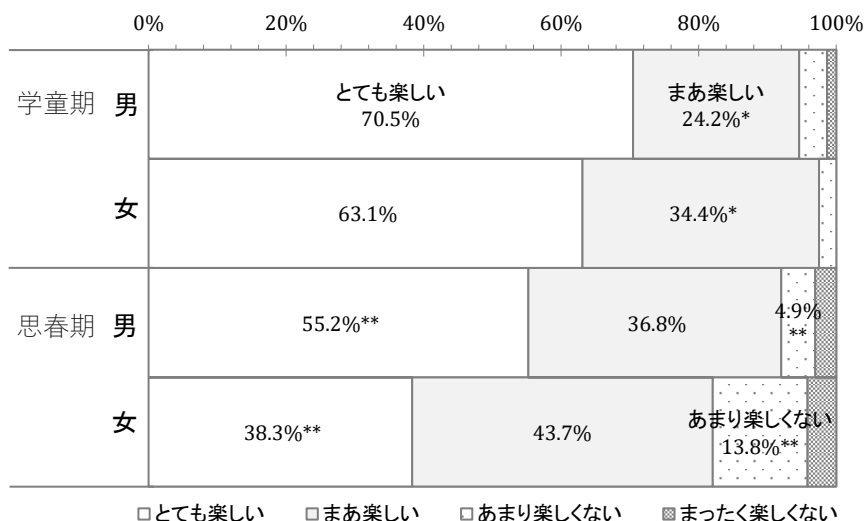
【メタボリックシンドローム「聞いたことがない」人の比率】

メタボリックシンドロームについて「聞いたことがない」人の比率を調査時期でプロットすると、乳幼児期、学童期、思春期で明らかに上昇しています。一方、該当する年代である青年期、壮年期は少ない比率でほぼ横ばい、高齢期では減少傾向にあります。



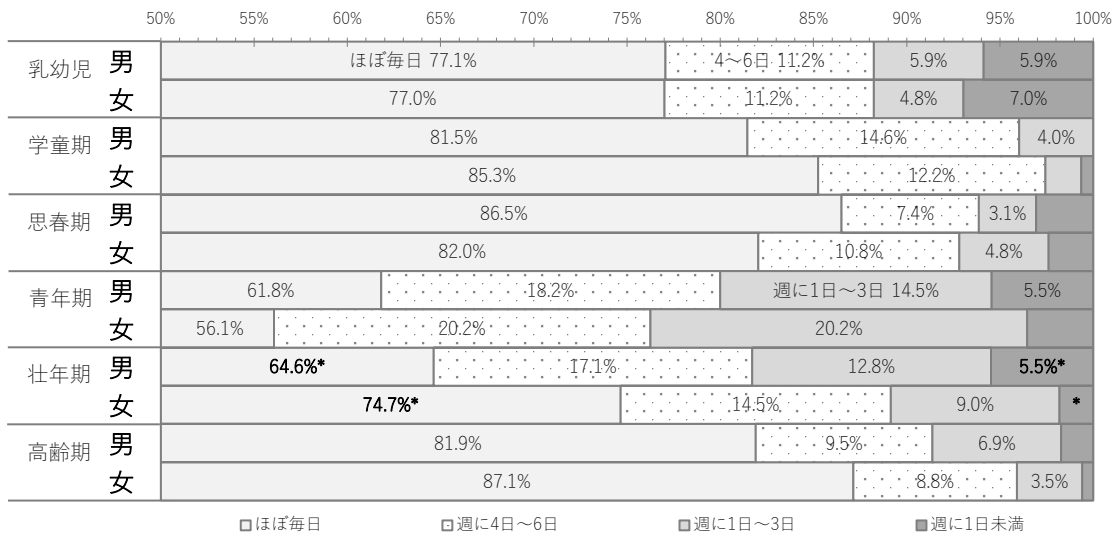
【運動が楽しいか】

運動が楽しいかという問いでは、男子のほうが女子より楽しい、思春期より学童期のほうが楽しいという人が多くなっていました。特に思春期の女子では、「あまり楽しくない」が多く、「とても楽しい」が少なくなっていました。



【主食・主菜・副菜が1日2回以上】

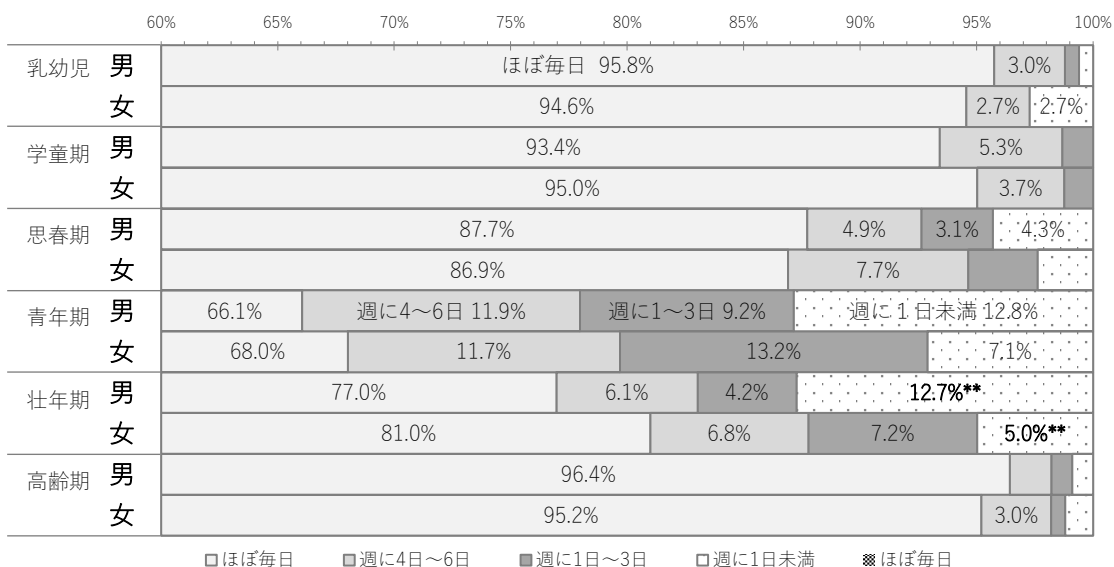
主食・主菜・副菜が揃った食事を1日2回以上「ほぼ毎日」食べる人が多いのは、学童期、思春期、高齢期となっています。男女別に比べてみると、壮年期の男性で「ほぼ毎日」が少なく「週に1日未満」が多くなっています。他の年代では特に差はみられませんでした。



【朝食】

朝食の喫食については、どの年代もほぼ毎日食べる人が大多数ですが、壮年期の男性で「週に1日未満」が多くなっていました。他の年代では男女別の差はみられませんでした。

なお、朝食を食べない理由では、壮年期は「朝食を食べる習慣がない」、学童期は「朝食を食べる時間がない」「好き嫌いがある」が多くなっていました。

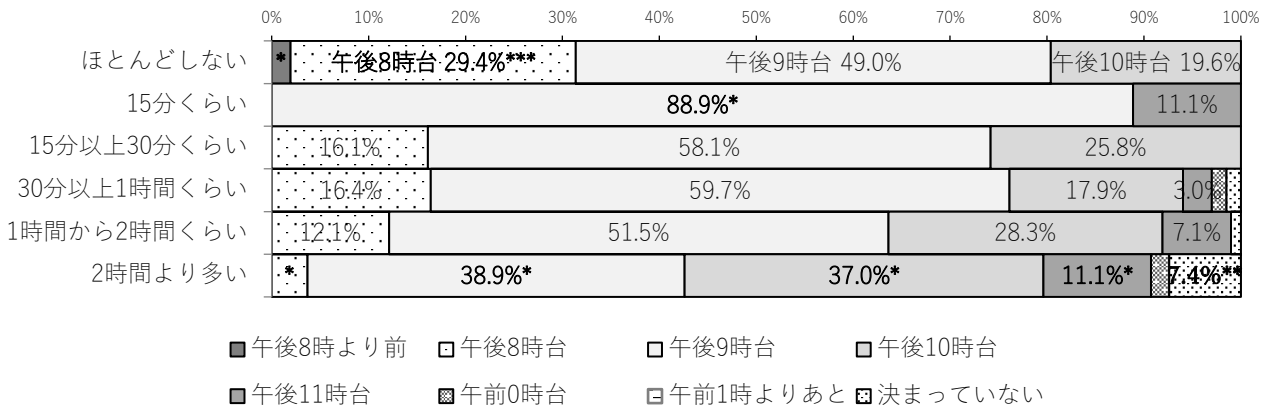


【ゲーム・メール・SNS・動画視聴時間と就寝・睡眠時間】

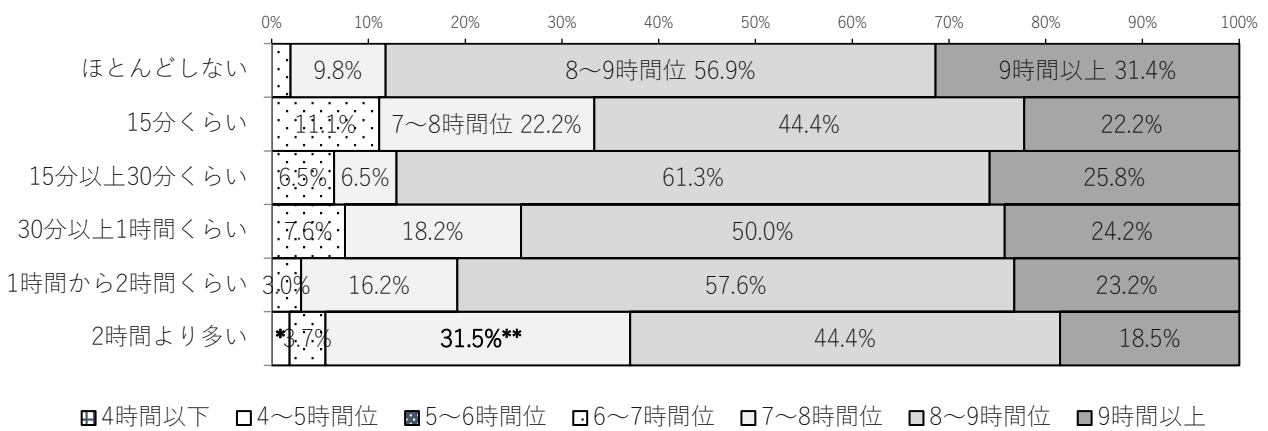
学童期のゲーム・メール・SNS・動画（以下、ゲーム等という。）の視聴時間と就寝時間を比較すると、ゲーム等をほとんどしない人の就寝時間は「午後8時より前」、「午後8時台」が多く、15分くらい視聴する人は「午後9時台」が多くなります。視聴時間が2時間より多い人は、就寝時間が「午後8時台」、「午後9時台」が少なく、「午後10時台」、「午後11時台」、「決まっていない」が多くなっています。

また、ゲーム等の視聴時間が2時間より多い人の睡眠時間は「4～5時間位」、「7～8時間位」が多くなっていました。

ゲーム等の視聴時間と就寝時間

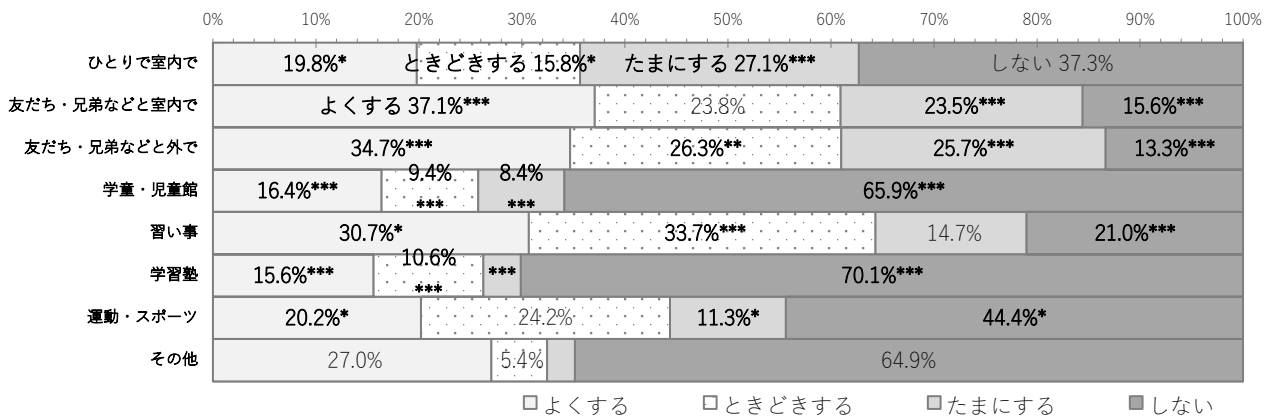


ゲーム等の視聴時間と睡眠時間



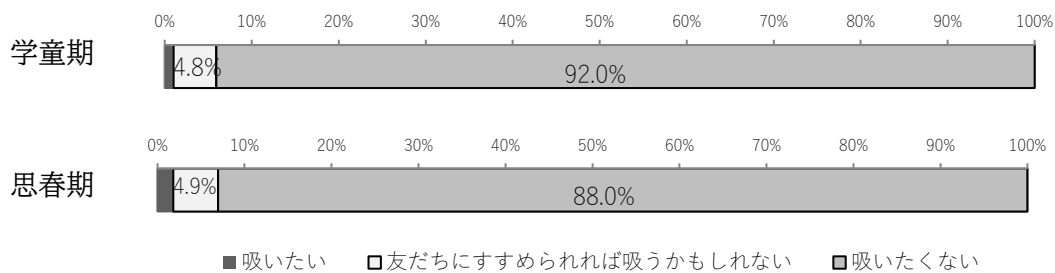
【放課後の過ごし方】

放課後の過ごし方では、「よくする」の多いのは「友達・兄弟などと室内で」、「友達・兄弟などと外で」、「習い事」となっていました。逆に「しない」の多いのは「学童・児童館」、「学習塾」、「運動・スポーツ」などとなっていました。



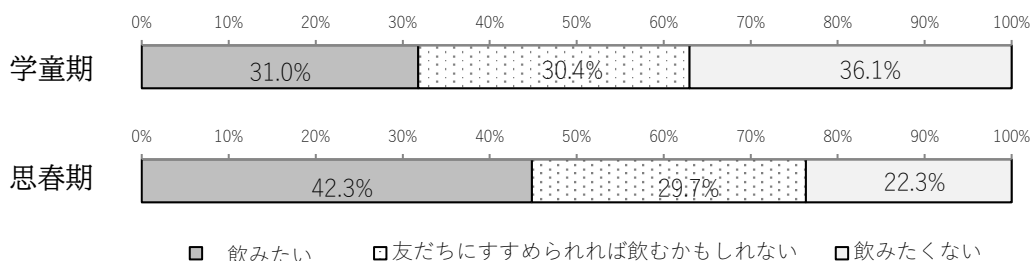
【喫煙意欲】

学童期と思春期に対し、「将来たばこを吸いたいか」と問うと、大多数が「吸いたくない」でした。



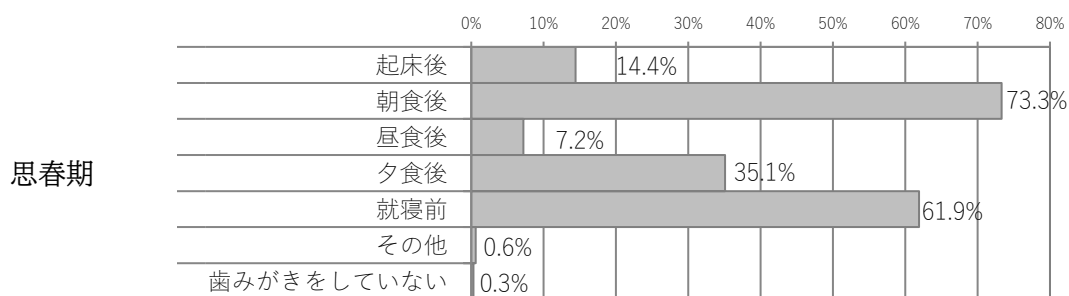
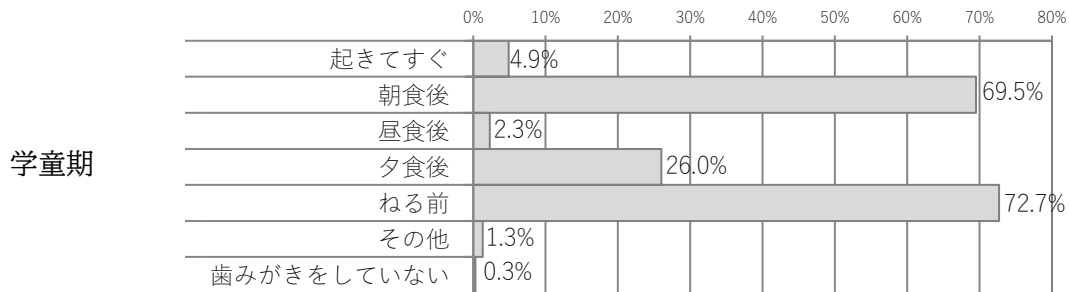
【飲酒意欲】

学童期と思春期の飲酒意欲をみると、学童期では「飲みたくない」が最も多く、思春期では「飲みたい」が最も多くなりました。



【歯磨き】

歯磨き習慣について、学童期では「就寝前」が多く、「起床後」、「昼食後」、「夕食後」が少ないです。思春期では「朝食後」が多く、「起床後」、「昼食後」、「その他」が少なくなりました。

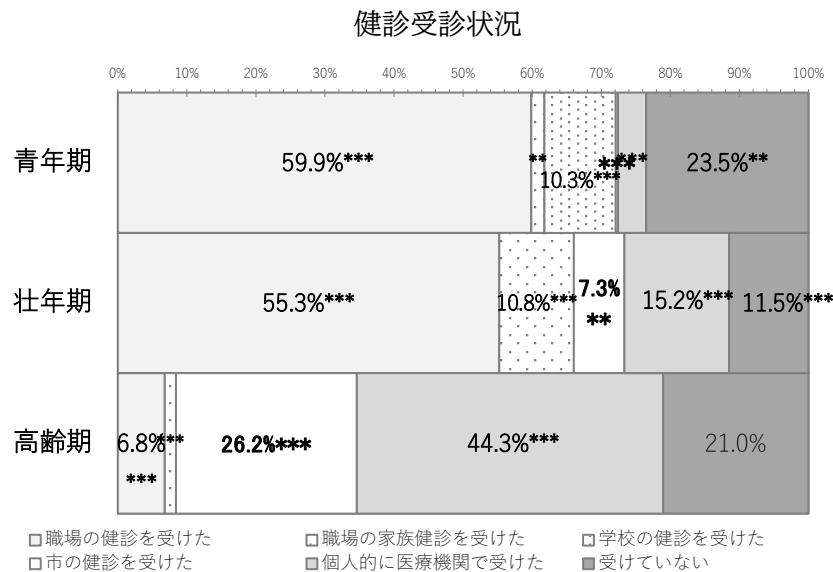


(4) 青年期・壮年期の傾向

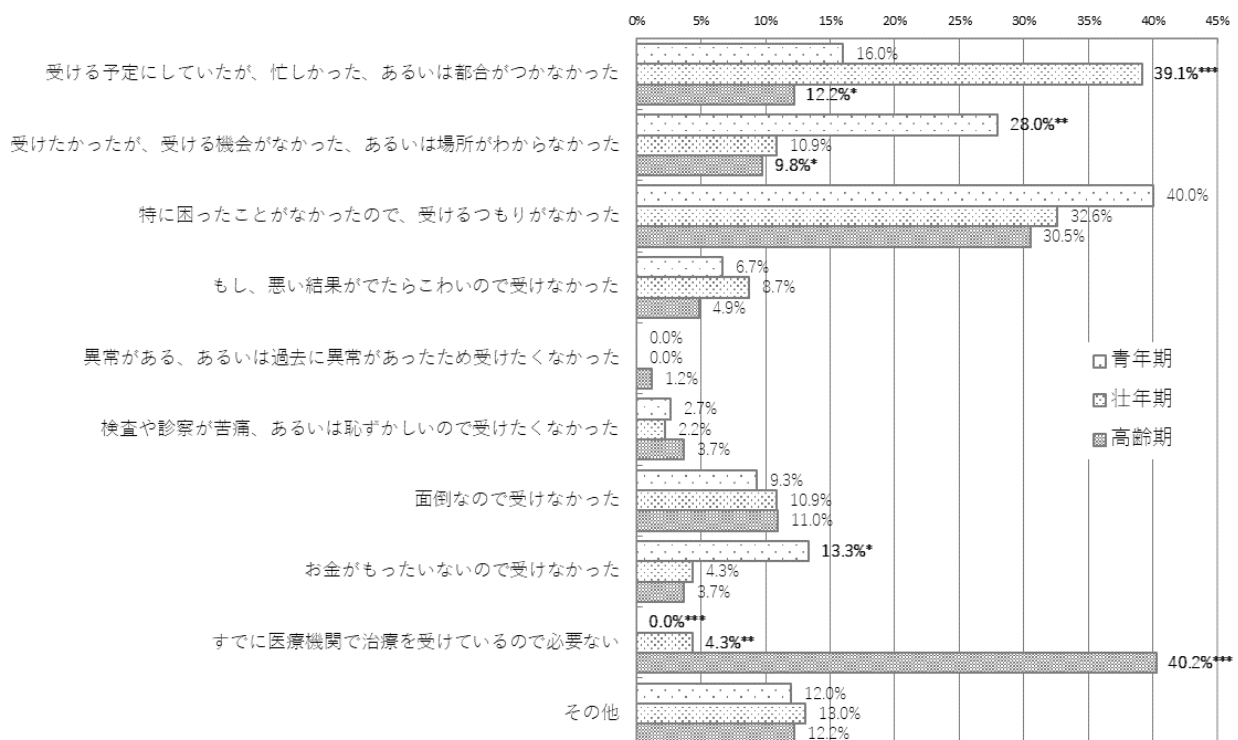
【健診受診状況・未受診理由】

健診の受診状況では、青年期・壮年期は職場の健診が多くなっています。なお、高齢期になると、「個人的に医療機関で受けた」という回答が多くなります。これは「健診」ではなく、病気の「受診」を指している可能性もあります。

健診を受けなかった理由としては、全年代で「特に困ったことがなかったので、受けるつもりがなかった」が多く、「症状がないときに行い疾患を早期に発見するため」の健診の意義を理解していない人が多いことが分かります。



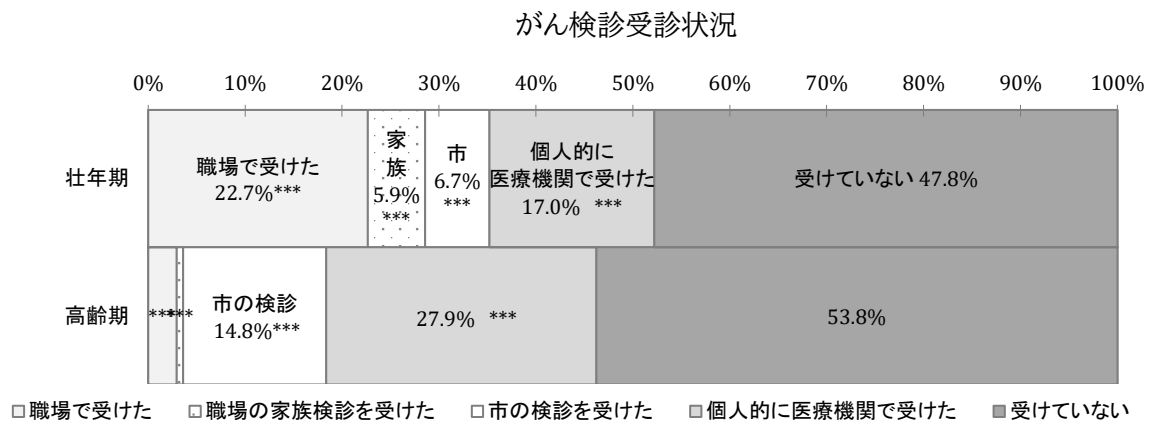
健診未受診理由



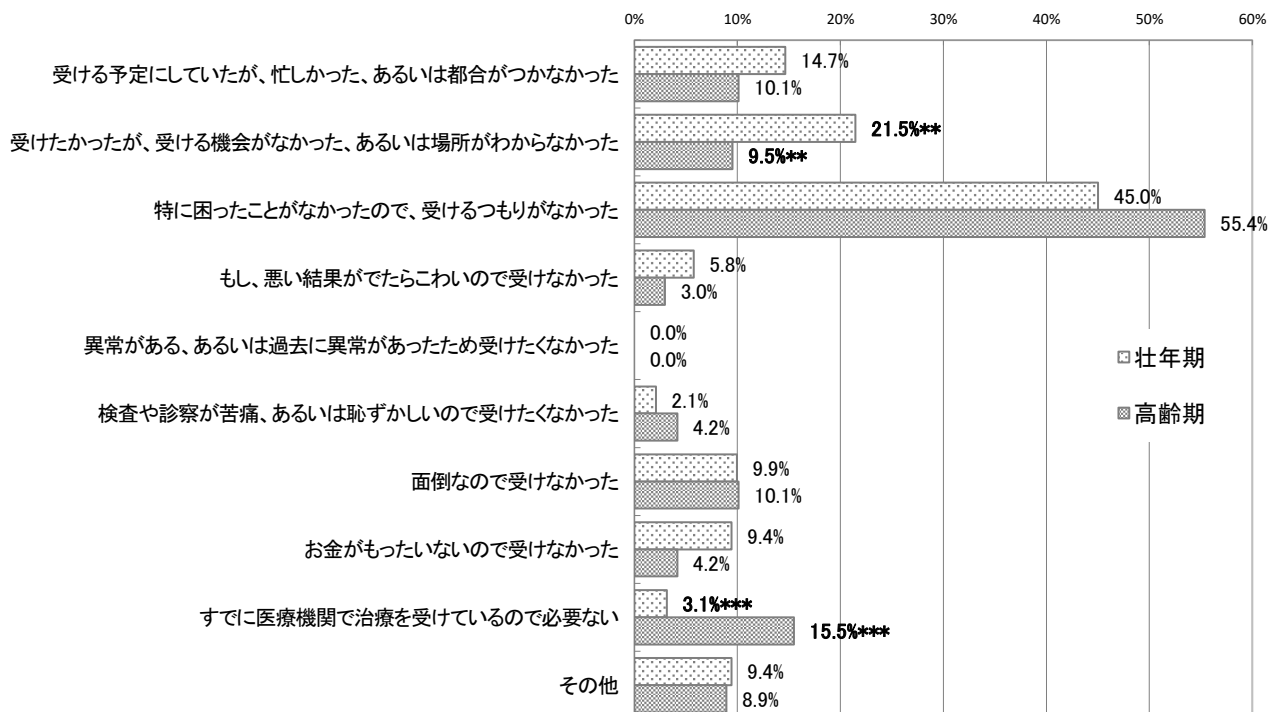
【がん検診受診状況・未受診理由】

がん検診は、全体的に受けていない人が多くなっています。高齢期では「個人的に医療機関で受けた」という回答が多いですが、これは病気の「受診」と混同があると思われます。壮年期、高齢期とも「特に困ったことがなかったため、受けるつもりがなかった」の割合が多く、症状がないときに行う検診の意義理解が進んでいないことが分かります。

検診を受けなかった理由としては、壮年期では、「受けたかったが、受ける機会がなかった、あるいは場所がわからなかった」が多くなっており、高齢期では、「すでに医療機関で治療を受けているので必要ない」が多くなっていました。ただし、医療機関での受療と検診受診とを混同し、結果として検診を受けていない人がいることも考えられます。



がん検診未受診理由



【ほしい健康情報（順位）】

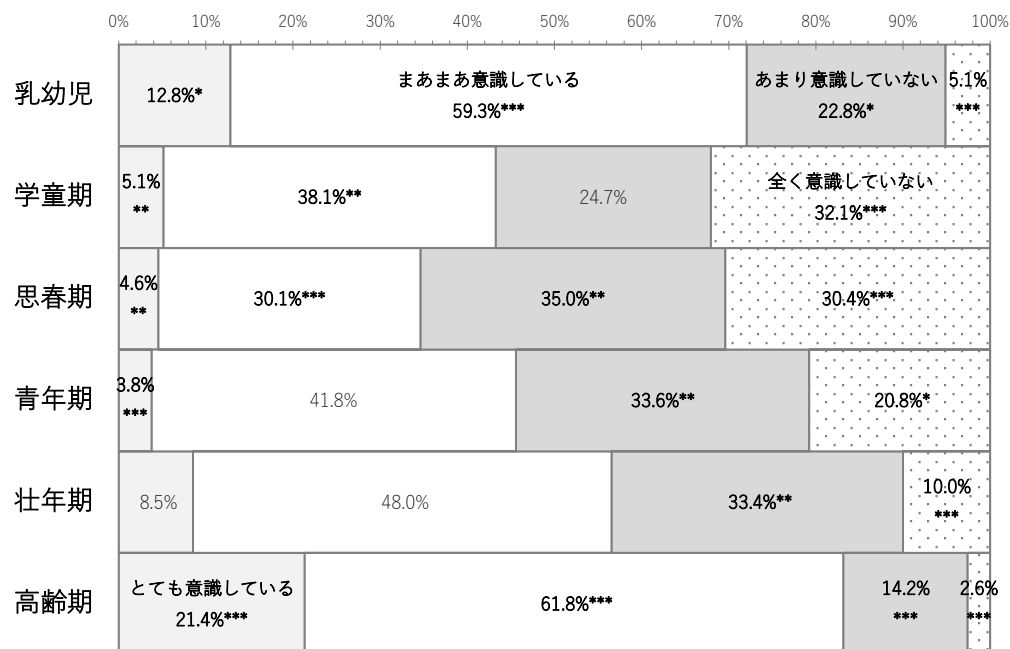
ほしい健康情報では、青年期は「ストレスなど、心の健康について」、「健康によい食事について」の順でした。壮年期は、「健康によい食事について」、「ストレスなど、心の健康について」の順になっており、同じ項目が1，2位を占めました。

順位	項目	青年期
1	ストレスなど、心の健康について	47.0%
2	健康によい食事について	38.4%
3	自分の体について	36.8%
4	睡眠について	32.7%
5	安全な食材、食事について	29.2%
6	運動やスポーツについて	26.0%
7	特にない	19.7%
8	放射能など安全な環境について	6.3%
9	お酒・たばこ・薬物について	3.5%
10	その他	1.6%

順位	項目	壮年期
1	健康によい食事について	43.3%
2	ストレスなど、心の健康について	36.0%
3	睡眠について	28.8%
4	安全な食材、食事について	27.8%
5	運動やスポーツについて	27.0%
6	自分の体について	26.5%
7	特にない	24.8%
8	放射能など安全な環境について	9.3%
9	お酒・たばこ・薬物について	5.3%
10	その他	2.5%

【減塩意識】

減塩への意識について、「あまり意識していない」、「全く意識していない」と回答した人は、青年期では54.4%、壮年期では43.4%に達します。

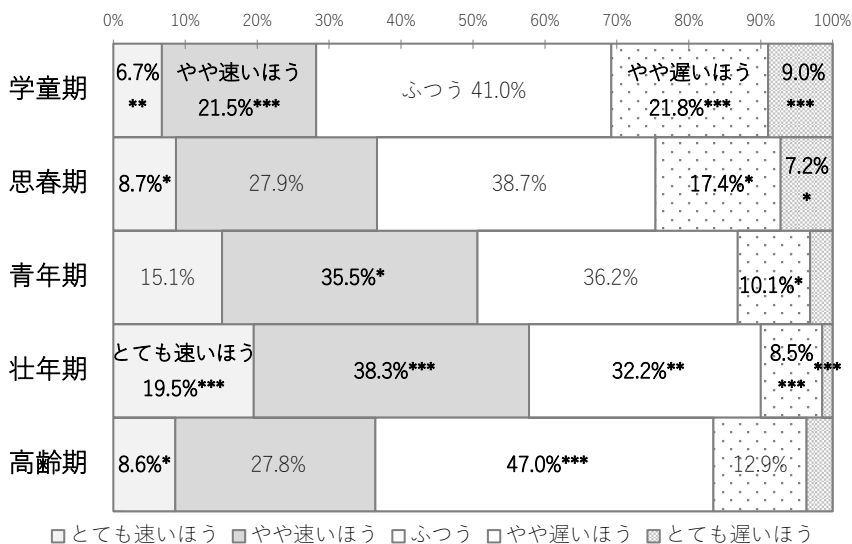


□とても意識している □まあまあ意識している □あまり意識していない □全く意識していない

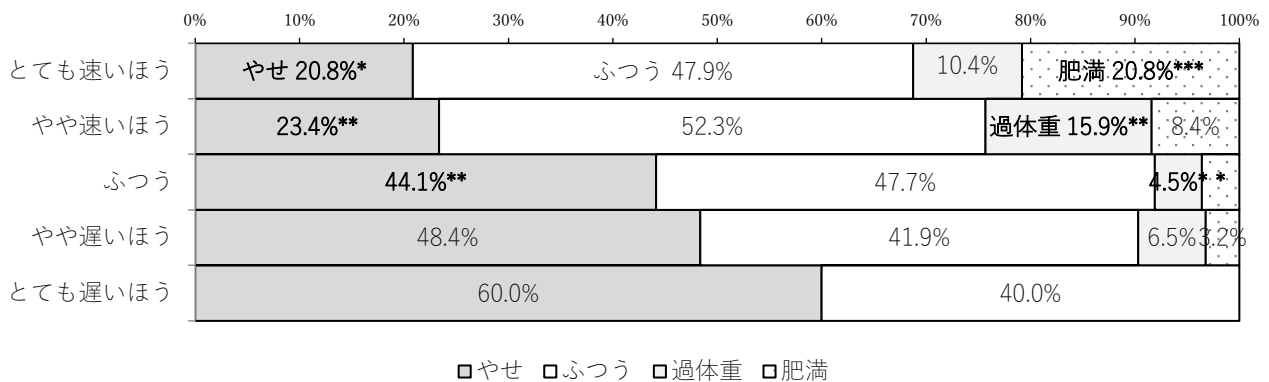
【食事の速さ】

食事の速い人は、青年期・壮年期で最も多く、その前後では少なくなっていました。「とても速いほう」、「やや速いほう」と回答した人は、青年期では50.6%、壮年期では57.8%に達しました。

なお、食事の速さと体型（BMI）の関連をみると、「とても速いほう」と回答した人は肥満が多く、「やや速いほう」は、「やせ」が少なく、「過体重」が多い結果となりました。「ふつう」と回答した人は、「過体重」や「肥満」が少なく、「やせ」が多くなりました。



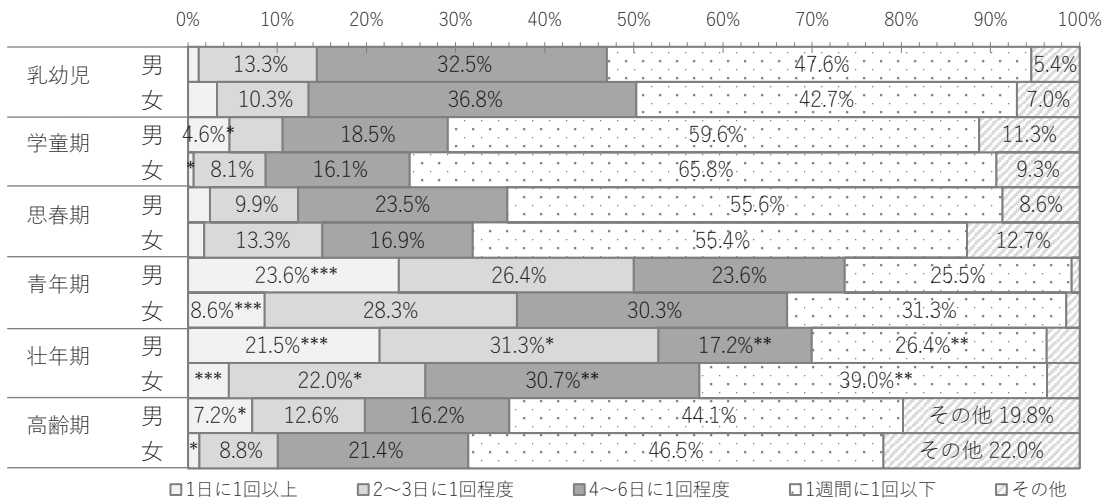
【食事の速さと体型(BMI)】



【外食・中食頻度】

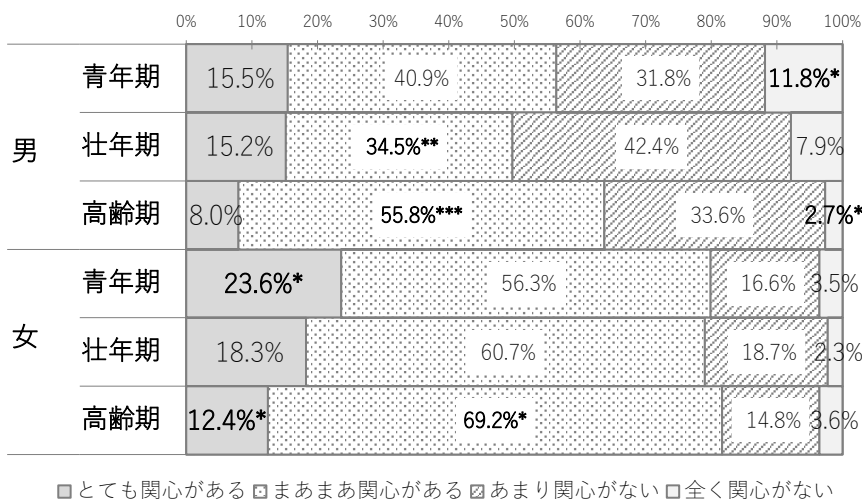
外食・中食の頻度については、青年期、壮年期で1日1回以上、2～3日に1回以上が多くなっていました。なお、学童期、思春期では1週間に1回以下が多くなっていました。

男女別に比べると、学童期、青年期、壮年期、高齢期で「1日に1回以上」が多くなっていました。



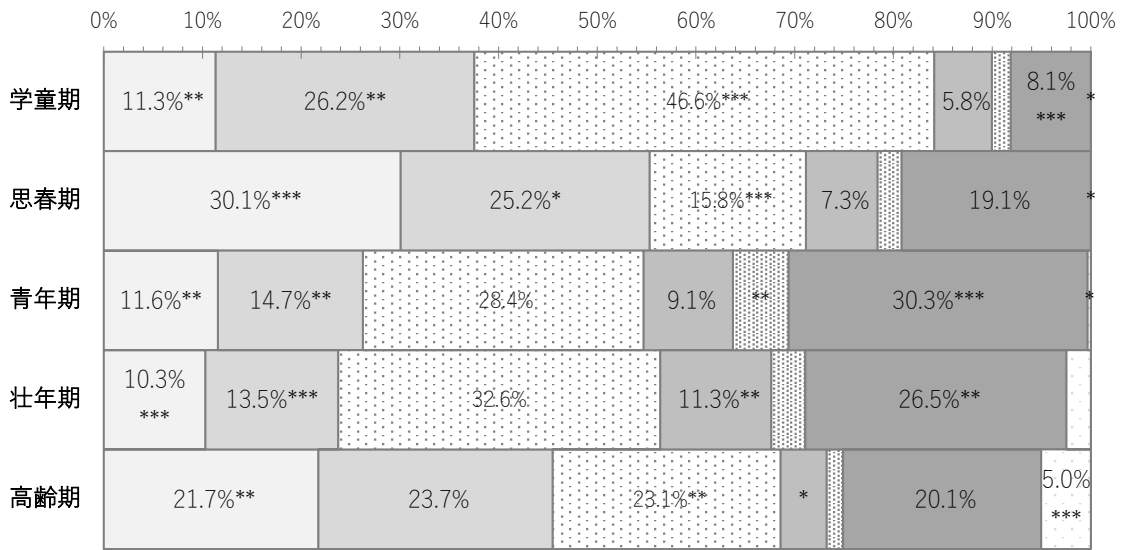
【食育関心】

食育への関心について年代別・男女別に比べると、青年期の男性は「全く関心がない」が多く、女性は「とても関心がある」が多くなっていました。全年代で男性のほうが「あまり関心がない」、「全く関心がない」が多く、女性では「まあまあ関心がある」が多くなっていきます。



【運動の頻度】

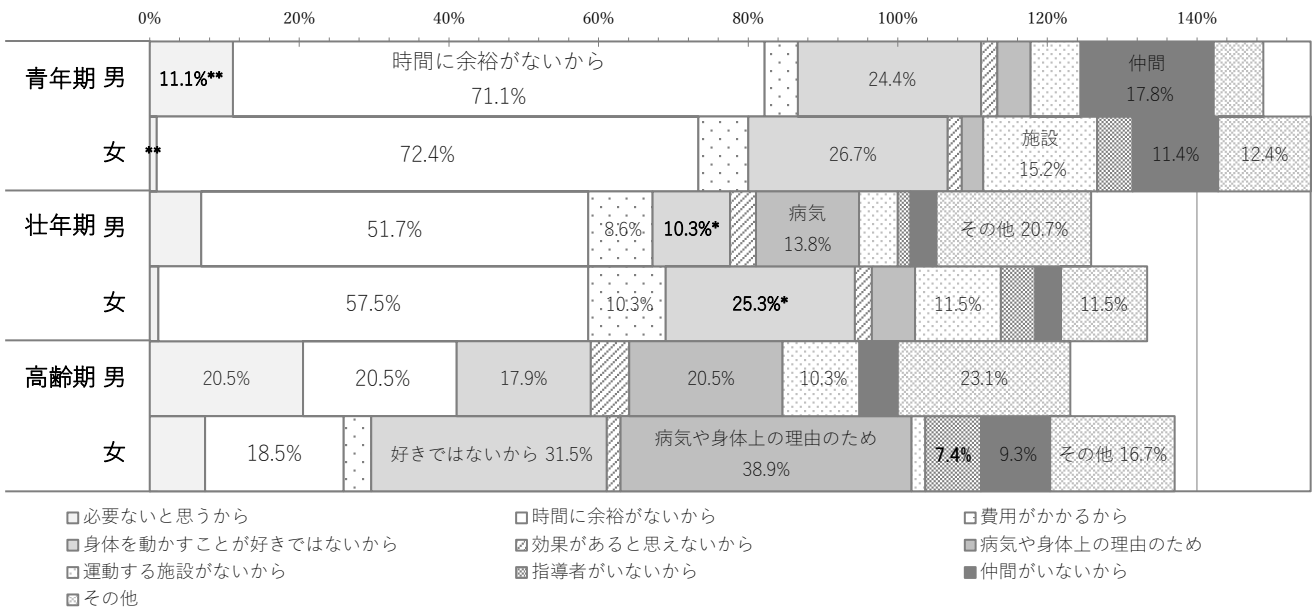
運動の頻度については、青年期と壮年期で「していない」人が多くなっていました。なお、「週5日以上している」のは思春期が最も多く、ついで高齢期が多くなっていました。



□週に5日以上 □週3~4日 □週1~2日 □月に2~3日 □月に1日以下 ■していない □健康上の理由で出来ない

【運動しない理由】

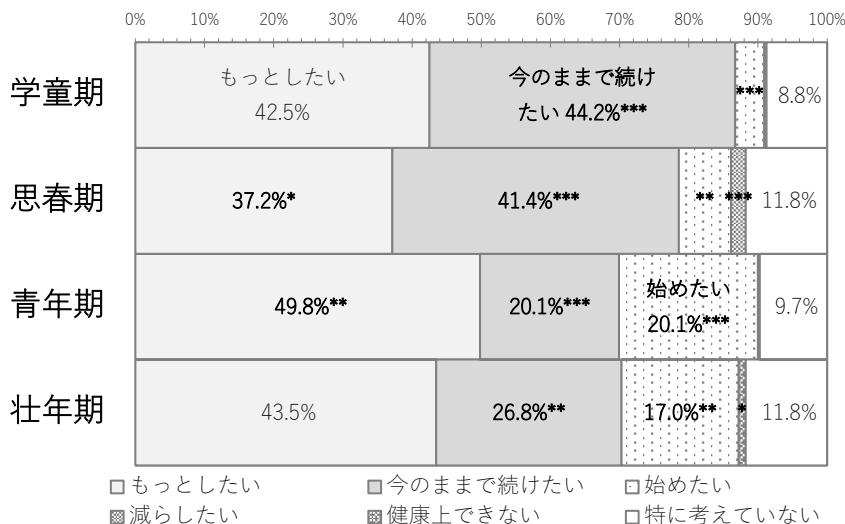
運動しない理由を男女別にみると、青年期の男性では「必要ないと思うから」が多く、壮年期の女性では「体を動かすことが好きではないから」が多くなっていました。



【今後の運動】

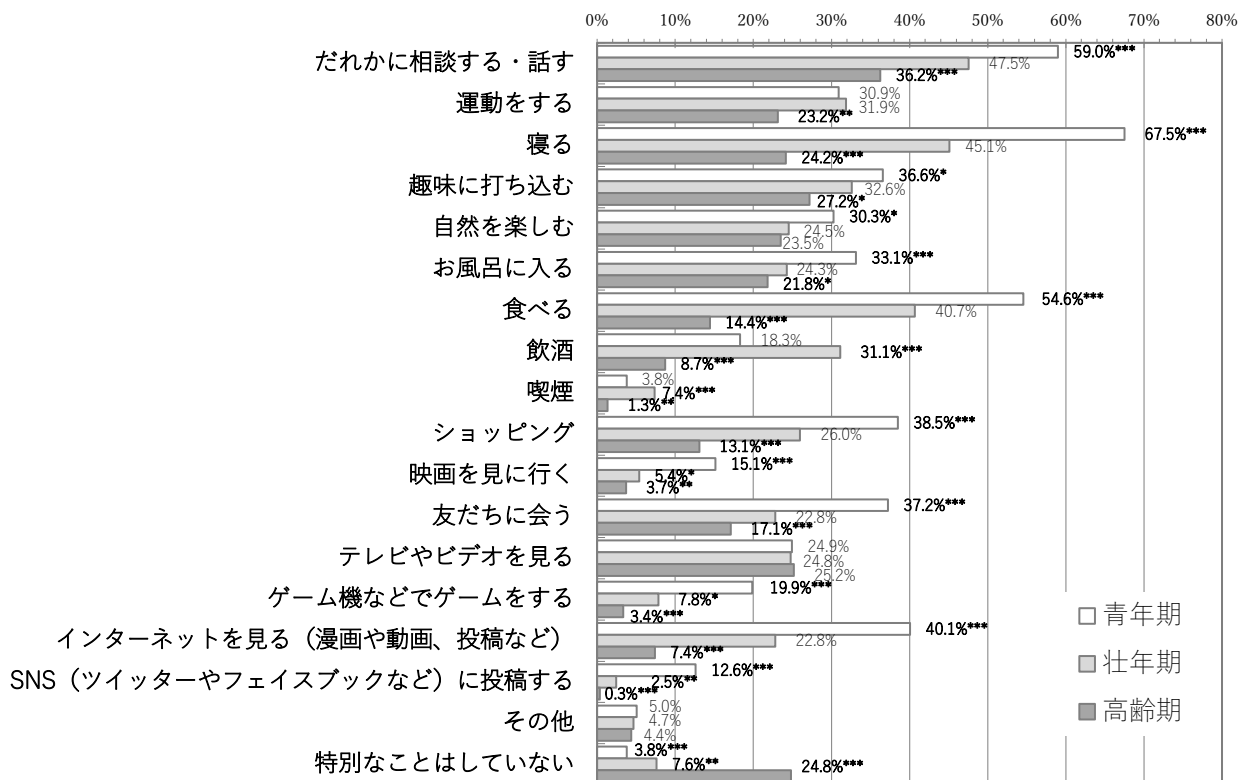
今後の運動については、青年期では、「もっとしたい」、「始めたい」が多くなっていました。壮年期では、「始めたい」が多いものの、「健康上できない」も多くなっていました。

なお、学童期では「始めたい」が少なく、思春期では「もっとしたい」、「始めたい」が少なく、「減らしたい」が多くなっていました。



【ストレス解消方法】

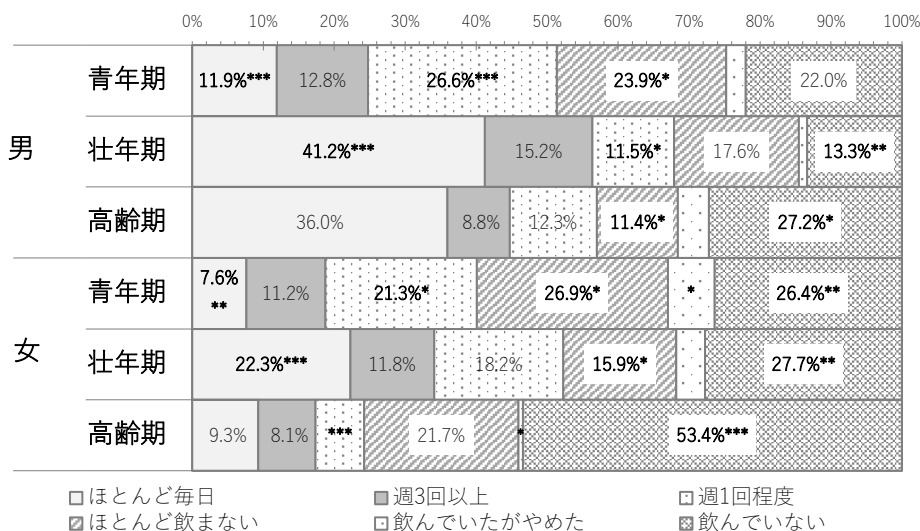
ストレス解消方法では、青年期が全般的に多くなっていました。壮年期で多いのは「飲酒」、「喫煙」。なお、高齢期で多いのは「特別なことはしていない」でした。



【飲酒状況】

飲酒状況については、男性のほうが女性より飲む人が多くなっていました。壮年期では、男女とも「ほとんど毎日」飲む人が多くなっていました。高齢期では、男女とも「飲んでいない」人が多くなっていました。

なお、飲酒量は、男性では壮年期で「2合未満」が多く、「1合未満」が少なく、女性では大半が「1合未満」となっており、特に差はみられませんでした。



(5) 高齢期の傾向

【健康情報入手先 (順位)】

健康情報の入手先では、高齢期では、「マスメディア (テレビ・ラジオ・新聞)」、「かかりつけ医または医療機関」の順になっていました。なお、青年期で1位、壮年期で2位である「インターネット」は高齢期で6位でした。

順位	項目	青年期	順位	項目	壮年期	順位	項目	高齢期
1	インターネット	66.7%	1	マスメディア (テレビ・ラジオ・新聞)	72.1%	1	マスメディア (テレビ・ラジオ・新聞)	72.3%
2	マスメディア (テレビ・ラジオ・新聞)	53.3%	2	インターネット	56.4%	2	かかりつけ医師または医療機関	52.9%
3	家族	37.4%	3	かかりつけ医師または医療機関	31.4%	3	本・雑誌	34.8%
4	本・雑誌	27.1%	4	本・雑誌	28.4%	4	家族	27.7%
5	知人・友人	22.4%	5	家族	25.2%	5	知人・友人	23.5%
6	かかりつけ医師または医療機関	18.7%	6	知人・友人	24.0%	6	インターネット	23.5%
7	市の広報紙・パンフレット等	7.2%	7	町の広報紙・パンフレット等	5.4%	7	町の広報紙・パンフレット等	14.5%
8	特に得ていない	6.5%	8	保健師・栄養士	3.2%	8	薬局	7.7%
9	その他	4.0%	9	薬局	2.9%	9	保健師・栄養士	3.2%
10	保健師・栄養士	3.1%	10	その他	2.2%	10	その他	1.6%

【食生活で困っていること（順位）】

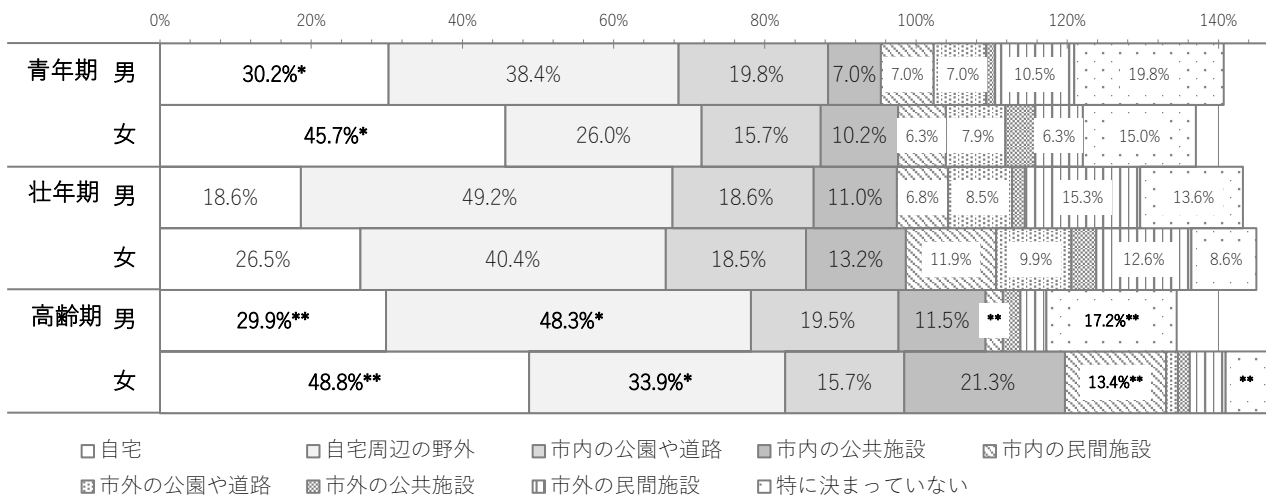
食生活で困っていることを順位別にみると、高齢期では男女とも「困っていることはない」が1位、2位は「ひとりで食べることが多い」となっていました。

順位	項目	高齢男性	順位	項目	高齢女性
1	困っていることはない	43.0%	1	困っていることはない	39.1%
2	ひとりで食べるが多い	21.0%	2	ひとりで食べるが多い	30.4%
3	食べすぎる	19.0%	3	調理が面倒	19.3%
4	早食い	17.0%	4	メニューを決めるのが負担	17.4%
5	野菜摂取が少なすぎる	13.0%	5	食べすぎる	14.9%
6	果物類が少なすぎる	11.0%	6	早食い	13.0%
7	適切な食事の量や内容が分からない	11.0%	7	摂取品目が少ない	13.0%
8	その他	10.0%	8	野菜摂取が少なすぎる	12.4%
9	摂取品目が少ない	9.0%	9	果物類が少なすぎる	11.2%
10	メニューを決めるのが負担	7.0%	10	脂肪の多い料理や油を使った料理が多すぎる	10.6%
11	調理が面倒	7.0%	11	甘い飲み物やスナック菓子が多すぎる	6.8%
12	食事時間が不規則	7.0%	12	肉や魚が少なすぎる	6.8%

【運動場所】

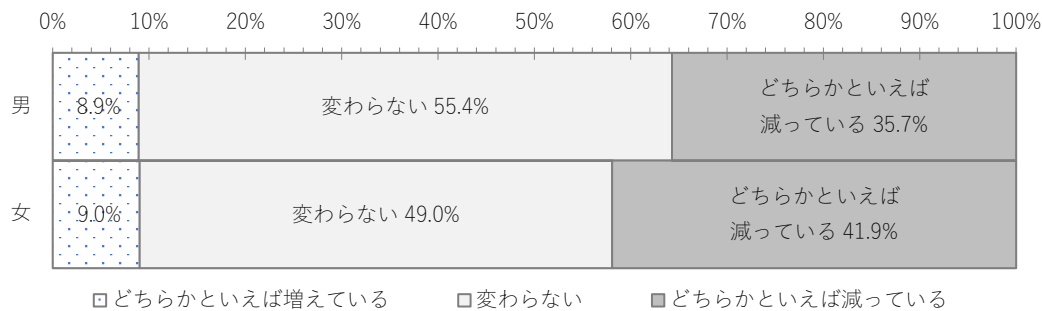
運動場所では、全般的に「自宅周辺の野外」が多くなっていました。男女別にみると、高齢期の男性では「自宅周辺の野外」、「特に決まっていない」が多く、高齢期の女性では「自宅」、「市内の民間施設」が多い、などの傾向がみられます。

なお、青年期では「自宅」、「特に決まっていない」が多く、壮年期では「自宅周辺の野外」、「市外の公園や道路」、「市外の民間施設」が多くなっていました。



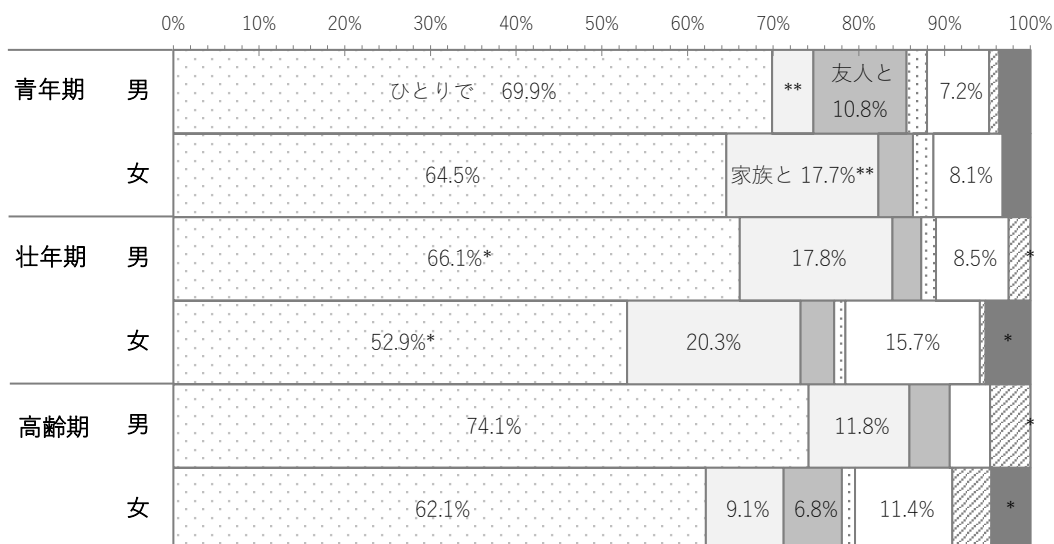
【運動回数の変化】

高齢期の運動回数については、男女別に差はみられませんでしたが、年齢別にみると、85歳以上で「どちらかといえば減っている」が多くなっています。



【運動仲間】

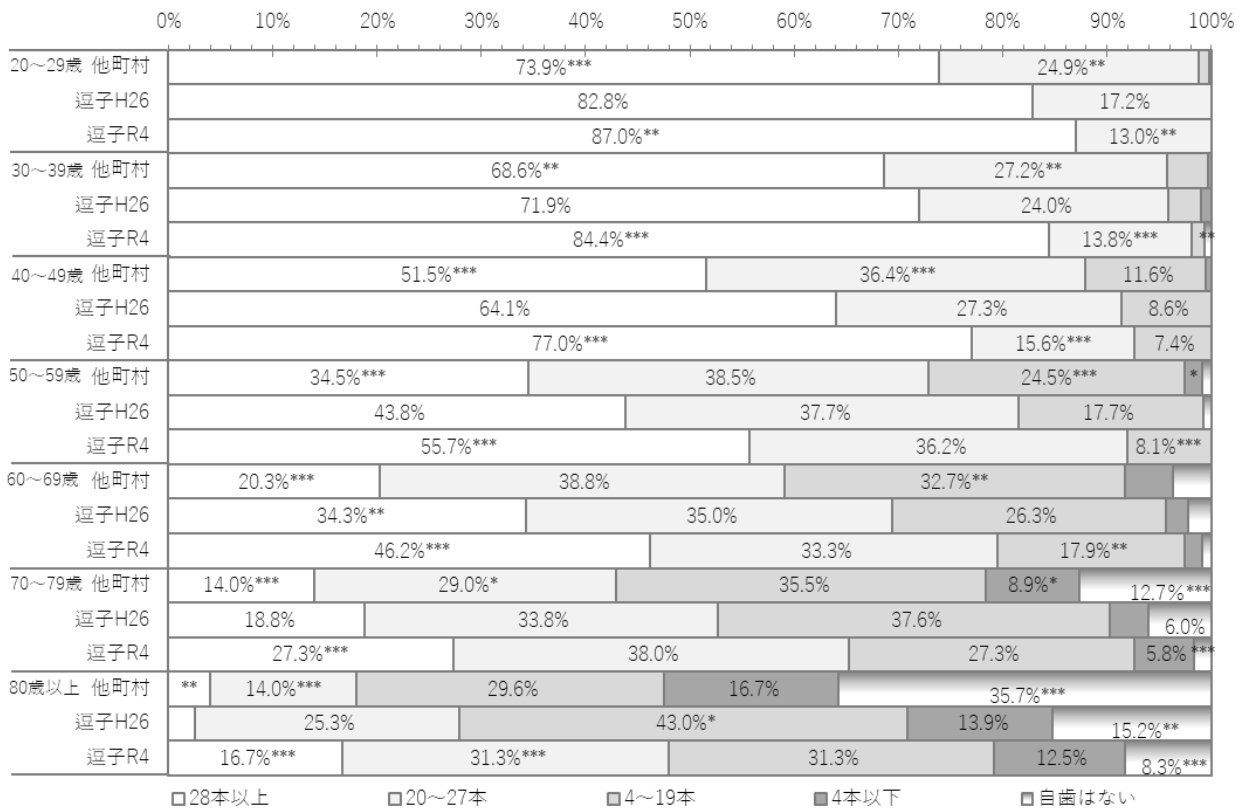
運動仲間は、「ひとりで」が最も多く、男女別にみると高齢期で差はみられませんでしたが、青年期の男性は「家族と」が少なく、青年期の女性は「家族と」が多くなっていました。壮年期の男性は「ひとりで」が多く、壮年期の女性は「ひとりで」が少なくなっていました。



□ひとりで □家族と ■友人と □職場の人と □サークルやクラブの仲間と □隣近所の人や地域の人と ■その他

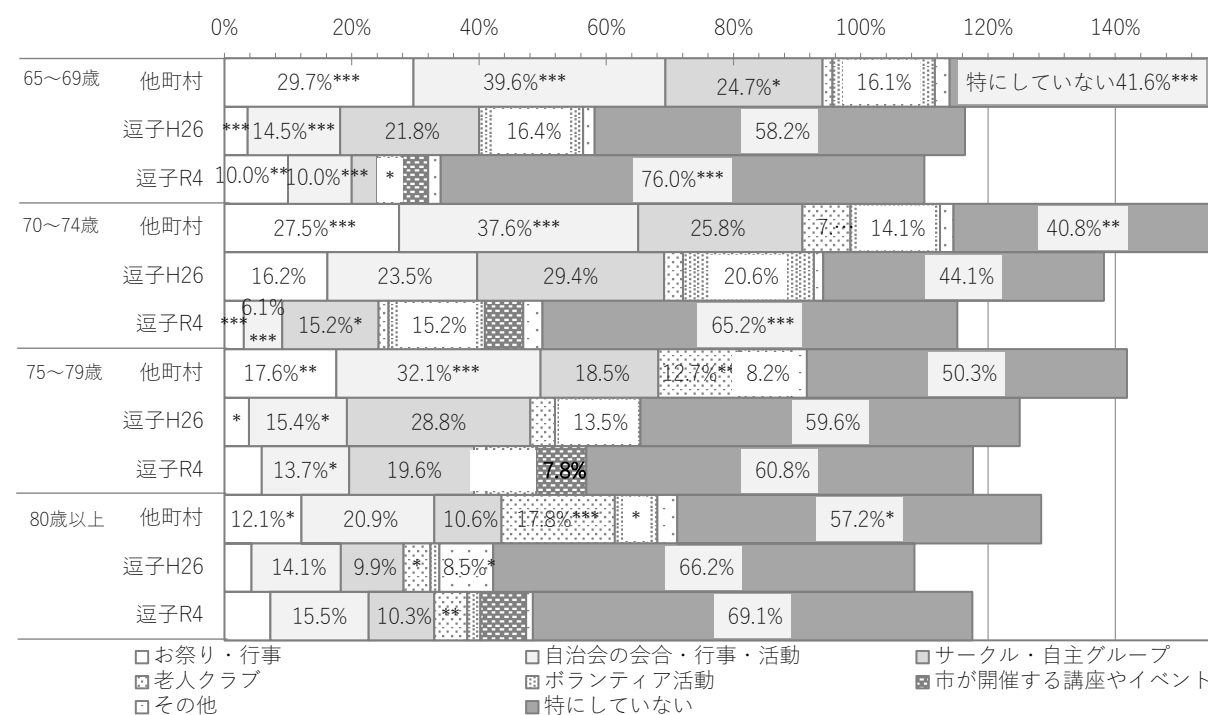
【自歯本数】

高齢期の自歯本数について、他町村・前回調査と比べると、全年代で「28本以上」が多くなっていました。80歳以上で「自歯のない」人は、前回調査では15.2%でしたが、今回は8.3%と半分近くに減少しています。



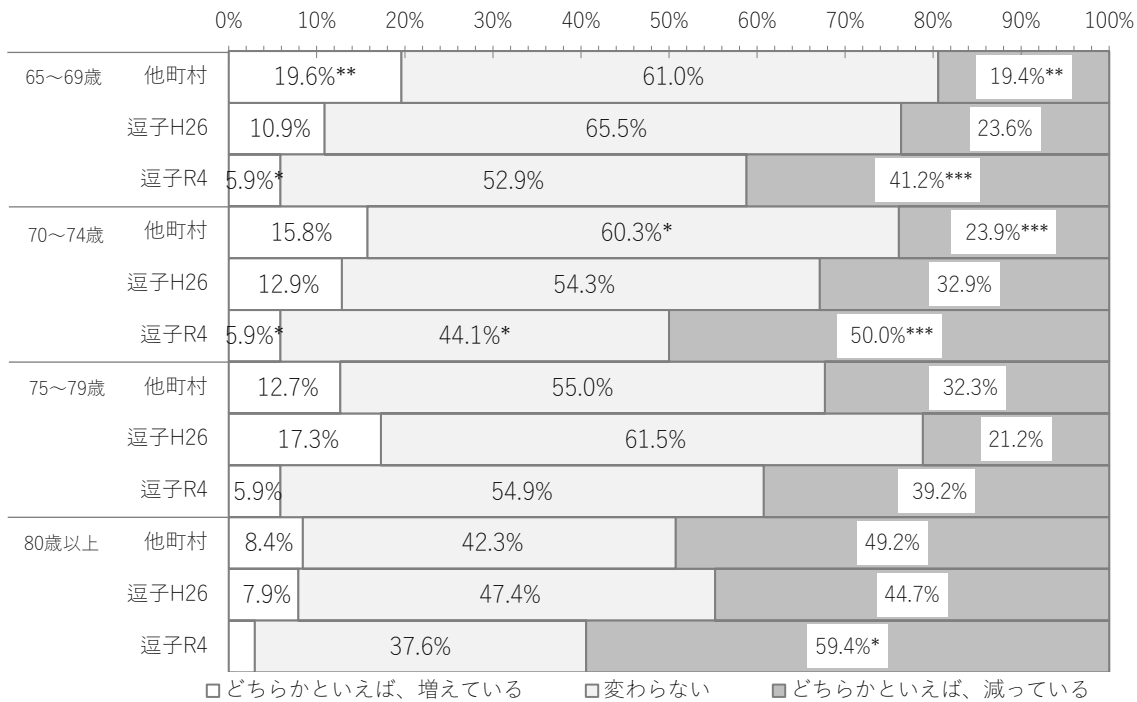
【社会活動への参加】

高齢期の社会活動参加について他町村・前回調査と比べると、65~69歳、70~74歳で「特にしていない」が多く、「自治会」、「サークル」、「ボランティア活動」が激減しています。これは、調査時期がコロナ禍であったため、外出自粛による影響も考えられます。



【1年前と比べた外出の回数】

高齢期における1年前と比べた外出の回数について他町村・前回調査と比べると、65～69歳、70～74歳では、「どちらかといえば、減っている」が多く、「どちらかといえば、増えている」が少なくなっていました。80歳以上でも「どちらかといえば、減っている」が多くなっていました。これは、調査時期がコロナ禍であったため、外出自粛による影響も考えられます。



【スマートフォンの所有】

高齢期でスマートフォン（スマホ）を持っているかについては、年齢が上がるほど保有率が低くなっていました。65～69歳では「持っている、既存の機能の他、アプリをダウンロードして使うことがある」が多くなっていました。

